

大型プロジェクトと地場産業の連携

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は昭和天皇の崩御、海部内閣の誕生、県知事選挙、参議院議員選挙と激動の年でありました。今年こそは四海波静かに国もおさまる年であることを願うところであります。二月早々、衆議院議員選挙が予定されております。投票率の良し悪しが国政に対する関心度のバロメーターとして評価されます。お互いがそれぞれ自覚の上にたち悔いのない投票を願うとともに、是非とも全国一の投票率のよい村にしたいものであります。

さて、私も村民各位のご信任をいただき村長就任以来早くも四年目を迎えるようとしております。おかげさまでまことにこの間、先輩諸兄が立案計画されました岩室村総合開発計画も八十パーセントの達成率をみることもできました。これも一重に村民各位のたゆまぬご協力とご支援のたまものであると衷心より深く感謝申し上げます。



岩室村長 岩室 和久

す広域排水事業につきましては、いよいよ最終段階になろうかと思われましますので地域の皆さま方と得心のいくまで懇談を願ひ、合意のもとで事業の推進にあたりたいと考えておりますので、何分ともよろしくお願ひ申し上げます。このことに付随する問題で矢川排水事業がありますが、この件につきましては大方のご同意を得させていただきましたので、新年度から着工の運びとなります。いずれの事業とも隧道掘削を伴いますので、その残土を利用して間瀬の海岸埋立を実施すべく鋭意準備を進めております。これが着工可能となりますと約十平方メートル（十町歩）の埋立地が出来ることとなります。この埋立地利用につきましては、折々皆さま方と協議を重ね実施に移してまいりたいと考えております。

また、県道改良工事の巻五ヶ浜線も着工され、関係の各位には大変ご迷惑をおかけしているところではありますが、何分のご

かねて懸案でありました和納小学校の移転改築事業も予定どおりの進捗をみており、新年度においては校舎棟、屋内運動場、並びに一部特別教室棟も完工いたします。

また、平成三年度事業としてプールの建設にあわせて外構工事を完工し、二学期より開校したいと考えております。なお、学校給食センターについても平成三年度事業として現和納小学校プール跡地に建設を予定しており、完成と同時に管内全小中学校に配送開始したいと考えております。そして、地域の皆さんに大変ご迷惑をおかけしてあります。

協力をお願いいたします。

以上、本村に課せられた大型事業の概略を申し上げます。たが、このような事業に観光商工並びに農業等の発展策をいかに結びつけるべきか、各位からそれぞれの立場で考え英知を出しあっていただきたいと思ひます。なお、生涯学習、社会福祉等についても心してまいり所存でございます。以上、所信の一端を申しのべ新年のごあいさつといたします。

平成二年 新春

新春を迎えて

個性豊かな活力ある村づくり

謹んで平成二年目の新春をお慶び申しあげ、あわせて皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、年号が平成にあらたまつて早いもので一ケ年が過ぎ去ったわけですが……昔から巳年には、大きな社会変化や政局に変動が起ると言われてきました。かつての日本海の開戦、ロシア革命、ウォール街の株の大暴落、日米開戦、スターリンの死亡等はみんな巳年の出来ごとでありました。昨年は国内を始め、内外には色々な出来ごとが多々ありました。特に我が国では、一億総国民の祈りも空しく昭和天皇が崩御され歴史が変わり、リクルート事件による竹下内閣の早期退陣、農産物輸入自由化、水田農業確立後期対策等の農業問題、混迷欠陥だらけの消費税導入実施等々からきた国民の怒り反感による参議院議員選挙でのかつてない自民党の大敗。ショッキングな事件では、いかに金余り経済大国の日本といえども今様かぐや姫でもあるまいに竹やぶ事件、身近なことでは君前知事の急死、新潟県が生んだ世界の大物政治家元首相田中角栄の政界からの引退表明等々は、正に巳年の予言通りの波乱狂乱といえる激動の厳しい一年であったと思ひます。



村議会議長 竹内 一

す。地域間競争の時代といわれる今日、それぞれの地域が自からの創意と工夫により個性豊かで活力のある我が郷土村づくりを皆さんと共に進めていかなければならないと思ひます。そのためには、今後、村民や地域の発想を大切に地域の特性に根ざした独自性ある施策を積極果断に実行していく必要があると思ひます。

かつて我々は、過去にモノに飢えてきた時があったが、現代は超ハイテク社会を迎えつつあり、これからの生活はますます大型化、高級化時代に入り、日本社会は「貴族的消費社会」の様相が強まってくると思ひます。

とある学者が話しています。

欲しい物はすべて手に入る、無い物なしのこんなすばらしい社会構造の中にあつて、これから迎える新時代の対応、取組みなど大きな課題が山積してまいります。それだけに心配ごともおたくさんあります。しかし、今や日本も世界も大きく変わろうとしています。

地方の時代と言われた八十年代が終つて、いよいよ今年からは千年に一度の大世紀末の九十年代を迎え、二十一世紀へ大きく飛躍するための助走期と言われる大切な時代に入ったとも言われます。昨今の社会経済情勢は、高齢化、国際化、情報化の進展など大きく変貌してきておりま

国の発展、村づくりの基本はあくまでも人づくりにあると思ひます。本村が国の指定をいただいで推進しております生涯教育もその一つであります。昭和四十五年以降に生まれた、いわゆる、新人類と称する若者達が大人になり社会の仲間入りをして参ります。そんな若人に大きな期待をかけたのです。今年、色々の意味で出発点の年でもあり、新生岩室村が誕生して三十年という記念すべき年でもあります。天馬空を駆る千年にあやかりまして、どうか良い年であることを念じて新年のごあいさつといたします。

ことしは

午年

平成 二年は午年です。馬は、人間と意志のかような畜として、昔から親しまれてきました。利口な動物というわけですが、でも最近では、馬を見かけることが少なくなりました。八万二千頭



これは、日本で飼われている馬の一番最近の数です。そのほとんどが乗馬用で、農耕馬、ばん馬（荷を引かせる馬）などは少数派です。ちなみに牛は、肉牛、乳牛を中心に約四百七十万頭が飼育されています。

人類が馬を家畜として飼いはじめたのは、午よりも遅く、紀元前四千年ごろと推定されています。そして今日まで、運搬用、農耕用、乗馬用はもちろん、戦争や狩猟にも馬は登場します。

こうした馬と人間との密接な間柄を反映して、馬についての諺や漢字が豊かです。「馬がいなくなると、天気がよく



なる」とか、「馬がはねると雨になる」という地域があるかと思えば、一方では、「雨になる」のではなく「晴れる」と、反対の意味を言う地方もあります。馬と人間との関係、その地域の気候などの違いによるものでしょう。